

## 平成26年度武蔵野市立関前南小学校 学校評価

【評価→ A:十分に達成されている B:概ね達成されている C:達成がやや不十分である D:達成が不十分である】

校長 伊野 啓子

項目	重点目標	取組状況・成果・課題	評価	改善策・対応策	ご意見
か し く	本時のねらいを明確にした授業づくりと学習規律の確立、学習の習慣化により、基礎的基本的な学習内容の定着を図る。	週の指導計画や指導案作成等により、計画的な授業を行い、本時のねらいを明確にした授業を実践した。全校で音読練習や並行読書が定着し、読む能力が高まっている。授業規律を自己評価し、定期的に保護者に返したが、個人差が見られた。児童の興味関心を高める授業づくりが必要。	B	児童の興味関心を高める教材や板書の工夫、ICTの効果的な活用を進める。音読や並行読書の全校での取り組みを継続する。算数少数人数指導での習熟度別の授業づくりや特別支援教室、まなべえの実施により、個人差に応じた指導を進める。東京ベイシックドリルにより定着度を点検し補充を図る。学習のきまりアンケートの保護者へのフィードバックを続ける。	・保護者アンケート結果で、「お子さんが授業が分かりやすい」と言っているか」の回答で、「あまりあてはまらない、あてはまらない、わからない」と回答している学年が高学年に多い傾向でないのであれば、先生方がアンケート結果を見て、指導方法について振り返る機会となると思う。 ・アンケート結果を見て、先生方が伸びるために改善して欲しい。 ・先生方が互いに補い合って、チームワークよく仕事をしているのがよい。
	言語活動の充実により、主体的に考え適切に表現する児童を育成する。	校内研究で、国語科の単元を貫いた言語活動を継続し、子どもが見通しをもって学習を行った。子どもが主体的に考えて学習に取り組む授業づくりが進んだ。学習内容を精選し、自分の考えをまとめ相互に伝え合う時間を確保し、考えが広がり深まったりしてきている。	B	課題や発問の工夫により、児童の興味関心を高め思考力表現力を育む授業づくりを校内研究や日常の授業で継続していく。国語の学習を中心に考えたことを児童が話し合う場面で相互に伝え合うようにすることで、自分の考えを広げ深めることができるようにしていく。児童が、相互に伝え合う活動を、他教科でも積極的に取り入れていく。	・研究授業で、授業を見合って改善したいことを勉強し合っているのがよい。 ・読書カードが習慣化しているのが、素晴らしい。あそべでも児童がよく取り組んでいる。 ・中学になると、語彙を豊富にもっていることが必要とされる。辞書を引きながら語彙を増やしていく、書く力を身に付けていくことが小学校の段階から必要である。 ・学芸会での表現力が素晴らしく感心した。
《学校関係者評価を受けての改善方策》児童が興味関心を高める教材の開発、ねらいを明確にした授業、指導と評価の一体化、反復練習により、基礎的基本的な学習内容の定着を図る。音読、並行読書の継続と辞書の活用を積極的に行い、言語活動の充実を図る。児童が興味関心をもつことができる課題の設定と時間の確保、考える手立ての指導により、児童が自分の考えを明確にして、意見を交流する授業づくりを進める。					
や さ し く	関前南小の約束を守って生活し、皆が安全に気持ちよく生活できるようにする。	学期始めには、きまりについての指導をし、週末の生活指導夕会で課題になったことを学級で指導してきた。できるだけ児童の様子を見て、その場で指導した。廊下歩行週間は成果があったものの、習慣化にはいたらなかった。	B	年3回の廊下歩行のスマイルキャンペーンの実施や代表委員会での取り組みを行い、児童に意識化を図る。児童が互いに気を付け合うように指導していく。休み時間の児童の見守りが、けが防止やルール徹底に効果的だったので、今後も継続していく。	・保護者アンケートで、「学校での学習や生活の話をする」が「あまりあてはまらない」、「あてはまらない」で30%いる。その結果と、「授業がわかりやすい」「児童一人一人を理解している」「学習や持ち物の準備」は関連していると考えられる。家庭での会話を増やしていく必要がある。 ・中学生は、子ども同士でのメールのやりとりがある。情報モラルについての指導が家庭でも学校でも必要である。 ・小鳩表彰をいただいた子どもがいて、よかった。なかなか表彰してもらえない事例を見付けるのが難しい。
	人に優しく接し、思いやりの心を育む。	児童の声を取り入れたいじめ防止基本方針を作成し実践した。6年代表委員が中心となっていじめ防止に向けた取り組みを発表した。日常を振り返り、いじめ防止キャンペーンでの行動宣言を行い、意識化を図った。	B	思いやりのある行動事例を紹介し、認めていく。児童の様子をよく見て、差別やいじめにつながる小さなことから、丁寧に指導していく。ふれあい月間でのアンケートにより、指導を継続していく。ふれあいタイムや異学年での遊びや交流を高学年を中心に計画的に行う。	・児童が人に親切に接している事例をできるだけ認めて、知らせていくとよい。また、児童に「助かった。」と言ってあげると大変励みになる。 ・学校全体が明るく温かい雰囲気がある。
《学校関係者評価を受けての改善方策》校内での共通理解によるきまりの徹底と、家庭での会話についての呼びかけにより、児童の規範意識と心の安定を図っていく。いじめ防止基本方針による指導と児童の話し合いにより、いじめ防止の意識を高める。親切な行きや人のことを考えた行いを認め、思いやりある行動を広めていく。異年齢の交流を増やし、互いの気持ちを思いやる態度を育てていく。					

項目	重点目標	取組状況・成果・課題	評価	改善策・対応策	ご意見
たくましく	基本的な生活習慣と正しい生活リズムの定着を図る。	学期初めに、生活リズムの点検を行い、児童の意識付けをした。ハンカチ・ティッシュの持参と手洗いうがいを継続して指導してきたが、個人差が大きい。	B	カードでの点検を継続し、各自の目標をもたせるようにする。その結果を保護者に伝えていく。保護者への協力を保護者会、たより等でお願いしていく。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域防災では、地域の人々の行動に不安を感じる。子どもたちは、学校で避難訓練をしているので、統一行動がとれる。地域防災の訓練にも、児童の数を増やしていきたい。</li> <li>・児童の緊張感を高めるために、予告なしの訓練を増やしていくのはよいことだと思う。</li> </ul>
	運動への意欲を高め、健康な体づくりを進める。	休み時間にほとんどの児童が元気に外遊びした。関ランタイムを開始し、走ることへの関心が高まった。縄跳び大会に向けて、縄跳びを自主的に練習する姿が見られた。3年初心者水泳教室が効果的であった。	A	中休みの遊びを活性化するために、学級遊び、異学年遊び等を工夫する。教員も中休みの遊びに加わったり様子を見たりを継続する。関ランタイムや縄跳び大会を継続し、体を動かすきっかけづくりを行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害は、いつ発生するかわからない。実際を想定していく必要がある。東日本大震災では、保護者が引き取りに行くか行かないかで、あわてていた。震度5弱以上は、迎えにいくと共通理解していくとよい。</li> <li>・あそべえでは、雨の日の体育館開放を喜んでいる。5年生が、下級生の面倒を見て仲よくドッジボールをする姿が見られ、ほほえましい。</li> <li>・雪が降った日には、校庭が大丈夫であれば、思いっきり雪で遊ばせたい。</li> </ul>
	「自分の身は自分で守る」意識を育み、自己管理能力を高める。	避難訓練により、非常時での基本的な行動がほぼ身に付いている。集会や休み時間等の場面によっては、気持ちの切り替えが遅くなる場合がある。様々な場合を想定し、自助共助の気持ちを育みたい。	B	避難訓練の想定や内容を検討し、児童が緊張感をもって取り組めるように工夫し、自分の身は自分で守る意識を高めていく。避難訓練の前後の指導を徹底し、気持ちの切り替えを意識させていく。	
《学校関係者評価を受けての学校の改善方策》基本的な生活習慣の確立を学期始めや半ばの点検や家庭へのお願いにより、児童の意識を高めていく。休み時間の教員のかかわりを継続し、児童の外遊びの内容を活発化していく。関ランタイムや縄跳びの活動内容を充実させ、日常の運動や遊びにつなげていく。避難訓練の工夫により、緊張感をもたせ、自助共助の精神を育む。					
保護者地域との連携	保護者との連携を図り、理解と協力を得る。	各種たよりでは、できるだけ児童の様子や協力をお願いを伝えるようにしてきた。保護者会の話題を選んだり、児童の様子をDVDで見せたり等して、保護者会の出席率を高めるように努力してきた。読み聞かせ、家庭科の実習、吹奏楽クラブ活動、地区班活動等で、保護者の協力を得ることができた。	B	今後も保護者会での懇談内容を検討したり、児童の様子を伝えたりするように工夫していく。学校と保護者、保護者同士の連携を図っていく。保護者に学校の様子を知らせるために、ホームページ作成の充実を図る。保護者の教育活動への協力を各学年からも進めていく。個人面談、教育相談の利用を呼び掛けていく。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域のおばあさんたちが、2年生と昔遊びをすることをとても喜んでいて。</li> <li>・地域の人が実際に子どもと接する機会が少ないので、昔遊びはよい機会となった。</li> <li>・お年寄りが子どもたちの知らない遊びを教えてくれて、伝承していく機会となってよい。</li> <li>・昔遊びを毎年恒例で行っていくとよい。</li> <li>・大人でも知らないような手まり歌があり、あそべえでも取り入れていきたい。</li> </ul>
	地域行事への参加や、地域の人材活用を増やし、地域との連携を図る。	地域行事への教員の参加協力が増えている。武蔵野館との交流が効果的であった。地域の人材活用が計画的に進み、次年度への継続も決定している。特に、戦争の話や昔遊びについては、地域と児童とを結びつける機会となった。内容を検討しながら充実させていく。	A	武蔵野館との交流には、実際に福祉体験を取り入れる等して内容を充実させ、福祉やキャリア教育についての観点を取り入れる。地域の人材活用について、年間カレンダーを作成し、事前打ち合わせを含めて各担当が内容を充実させ進行できるようにしていく。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手遊び歌もとても楽しく、ぜひ伝承していきたい。</li> <li>・ゲストとして来てもらった専門家の弁護士、手話・点字ボランティア等は大変内容が充実していて、子どもにとっても大変学ぶ機会となったと思う。</li> <li>・親同士が仲よくしていると、子どものこともよくわかり叱ることができる。保護者同士の連携が大切である。</li> </ul>
《学校関係者評価を受けての学校の改善方策》保護者会、個人面談、教育相談の内容の充実により、担任や学年の教員に保護者が相談しやすい雰囲気をつくる。保護者会等で、保護者同士が交流できる機会をつくり、保護者が互いに協力し合えるようにしていく。学校のホームページに学校の様子をできるだけ迅速に知らせることができるようにしていく。地域と学校担当者との打ち合わせを十分にやり工夫することにより、地域人材の活用内容の充実を図っていく。					